

IODEP マニュアル
《ダイコク電機ホールコンピュータ》
rev 1.0

2013/04/18 株式会社 Javatel

目次

IODEP マニュアル 《ダイコク電機ホールコンピュータ》 rev 1.0	1
目次.....	2
1 この文書について.....	3
2 変更履歴.....	4
3 ハードウェアの準備.....	5
3.1 ダイコク電機ホールコンピュータ側の準備.....	5
3.1.1 ICS-100 の設定.....	5
3.1.2 接続テスト.....	5
4 設定ファイルの準備.....	6
4.1 設定ファイルの準備.....	6
4.2 ダイコク電機ホールコンピュータ→IODEP.....	6
5 ダイコク電機ホールコンピュータ→IODEP.....	7
5.1 定義ファイル名.....	7
5.2 メッセージ詳細.....	7
5.2.1 定義行の構成.....	7
5.2.2 受信シグナル書式.....	7

1 この文書について

本文書では、IODEP とダイコク電機ホールコンピュータとの連携方法について記述します。「IODEP_共通.doc」を先に読んでいることを前提とします。

2 変更履歴

1.0 2013/04/18 マニュアルの文書構成を大幅に見直し。複数ファイルに分割。

3 ハードウェアの準備

3.1 ダイコク電機ホールコンピュータ側の準備

ダイコク電機ホールコンピュータから RS-232C クロスケーブルで ICS-100 に接続します。

3.1.1 ICS-100 の設定

RS-232C 接続する場合、ファームウェアの更新は必須ではありません。

[Network Configuration]

DHCP Client : Disable

IP Address : (LAN 内の固定 IP アドレスを指定)

Subnet Mask, Gateway : LAN 内の設定に準拠

DNS : 0.0.0.0

System Name : ICS-100-1 (他の ICS-100 と区別するために分かり易い名前を付けてください)

[[Operation Mode]

Serial Port Operating Mode : Pair Connection – Local(Master)

Support Protocol : (チェックしない)

TCP Port Number : 1024

Inactive Timeout : 20

[Serial Port Configuration] (ダイコク電機ホールコンピュータの仕様に準拠)

Mode : RS232

Baudrate : 9600

Character Bits : 7

Parity Type : even

Stop Bit : 1

Hardware Flow Control : none

Delimiter : 全てチェックしない

3.1.2 接続テスト

ここまでの設定で、ソケット送信アプリケーションを利用してデバイスとの接続テストを行うことができます。

[PuTTY] 日本語版

<http://hp.vector.co.jp/authors/VA024651/PuTTYkj.html>

をインストールし、

ホスト名 : (ICS-100 のアドレス)

プロトコル : Raw

ポート : 1024

で接続します。

ホールコンピュータから受信したシグナルが、PuTTY 画面に表示されます。

4 設定ファイルの準備

4.1 設定ファイルの準備

インストールフォルダ C:\¥Javatel¥IODEP にある、**iodep.ini** ファイルをテキストエディタで編集してください。空行および、行頭が「#」で始まる行は無視されます。

IODEP.daikokuHost.1	ダイコク電機ホールコンピュータを接続する ICS-100 の IP アドレスとポート番号を「:」で連結して記述します。 ポート番号は通常は 1024。(ICS-100 の設定に従う)
IODEP.daikokuHost.n (n は自然数)	同上。ライセンスで許可された数だけ設定できます。

4.2 ダイコク電機ホールコンピュータ→IODEP

5 ダイコク電機ホールコンピュータ→IODEP

ダイコク電機ホールコンピュータに対して IODEP からコマンドを送信することはありません。IODEP はホールコンピュータ側で発生したシグナルを、コマンド定義ファイルの記述に従ってメッセージとして扱います。コマンド定義ファイルは ConfigMaker.exe で編集することができます。

5.1 定義ファイル名

コマンド定義ファイルのファイル名は、以下のように決められています。

- ・ ダイコク電機ホールコンピュータから受信したシグナルによって Omnicast へコマンド実行する定義
→daikoku-omnicast.dbx
- ・ ダイコク電機ホールコンピュータから受信したシグナルによって Selco マルチプレクサへコマンド実行する定義
→daikoku-selco.dbx
- ・ ダイコク電機ホールコンピュータから受信したシグナルによって Moxa E2000 シリーズへコマンド実行する定義
→daikoku-moxa.dbx
- ・ ダイコク電機ホールコンピュータから受信したシグナルによって PELCO マトリクススイッチャへコマンド実行する定義
→daikoku-pelco.dbx

5.2 メッセージ詳細

5.2.1 定義行の構成

コマンド定義ファイルでは、各行に、受信シグナルに続いて任意の個数の実行コマンドを記述します。実行コマンドについては「IODEP_共通.doc」の 4.1.2 章、5.2 章および操作対象のデバイスに関する文書を参照して下さい。



受信シグナル	実行コマンド (TAB 区切りで複数記述可能)		
定義ファイルの種別に応じた受信シグナル	定義ファイルの種別に応じた実行コマンド	定義ファイルの種別に応じた実行コマンド	定義ファイルの種別に応じた実行コマンド

サービスがファイル中で定義されている受信シグナルを受け取った際、それに続く実行コマンドが独立したスレッドで続けて実行されます。

同じファイル中で同一の受信シグナルについてのコマンドを複数定義することもでき、その場合各行で定義されたコマンドは別スレッドで並列に実行されます。

5.2.2 受信シグナル書式

ダイコク電機ホールコンピュータ用の定義ファイルでは、発生コードと台または販売機番号半角スペースでつなげて受信シグナルを定義します。

42 (半角スペース) **0100-0200**
発生コード 台番号 (範囲)

① 発生コード(16進表記) :

ホールコンピュータから受信するイベントのコードを下記「発生コード一覧」から記述する。

「*」(アスタリスク)を指定すると、同じファイル中で定義していないすべての発生コードを意味する。

② 台番号、販売機番号(10進表記) :

イベントが発生した台および販売機の番号を記述する。「-」(ハイフン)で二つの番号をつなぐと範囲を表現できる。

表 1 受信シグナル定義の例

シグナル定義の例	解説
42 0100	台番号 0100 で特賞発生
56 5100-5200	販売機番号が 5100～5200 の販売機で金庫エラー
44 0100-0200	台番号 0100～0200 の遊技台でドアオープン
* 0001-3000	上記以外の発生コードが 0001～3000 の遊技台で発生

表 2 発生コード一覧

4 2	特賞
4 3	木枠オープン
4 4	ドアオープン
4 6	不正
4 8	売上断線 再プレイ断線
5 5	金庫オープン
5 6	金庫エラー
5 B	両替機オープン カード発行機オープン
5 C	両替機エラー カード発行機エラー